私たちの歴史
SHOIN点描

100周年への新たな一歩

2007年に創立90周年を迎えた樟蔭学園では、いくつかの記念事業が実施されました。その一つが、本学の卒業生であり日本を代表する女流作家である田辺聖子さんの文学館建設でした。素晴らしい作品の数々、魅力的な人柄などを紹介するこの文学館では、田辺さんの半生の紹介を通して「夢」の大切さを語りかけています。

そして、樟蔭学園はいま、100周年への「夢」に向けて動き始めています。在学生たちの笑顔と、卒業生たちの思い出がいっぱい詰まったこの学園は、子どもたちの「夢」を実現するステージです。今年の春もまた、「夢」の実現に向けて大きな成長を遂げた学生たちが社会へ羽ばたき、初々しい「夢」を持った新入生たちが入学してくるでしょう。学園が脈々と紡ぎ続けてきたこの「夢」の年輪は、すでに厚い層を成し、あと少しで100本目の年輪を刻もうとしています。

100本目の年輪を刻んだとき、この「くすのき」(樟蔭)には青々とした葉が茂り、美しい花を咲かせているはずです。そして、ここから生まれた種が次々と新しい芽を出し、豊かで美しい森を作っているに違いありません。歴史の新たな1ページ、100年目の樟蔭にご期待下さい。

2007　90周年事業 田辺聖子文学館 完成

樟蔭学園報　くすのき　Vol.165
2011年1月14日／学校法人樟蔭学園　法人本部企画広報室　〒577-8550　東大阪市菱屋西4-2-26　TEL:06(6723)8152　E-mail:gakuen.koho@osaka-shoin.ac.jp

くすのき

樟蔭学園報 Vol.165
大阪樟蔭女子大学／大学院・大阪樟蔭女子大学短期大学部・樟蔭高等学校・樟蔭中学校・大阪樟蔭女子大学附属幼稚園

新たに整備された、記念館と大学図書館の間のスペース。屋根付きスロープも設置された。

はばたけ、知性。

題字:大学　宮崎彰夫教授(日展会員／雅号・葵光)

2011 新年のごあいさつ……1
NEWS●多くのお客様で賑わった文化祭・大学祭……10
レポート●[ファッションと私たちの生き方、働き方]北山晴一……3
SHOIN LABO●[英語実践力を高める国際英語学科]藤澤良行…5
こもれびの窓●ケータリングサービス『タコス屋サリー』山口智子……7
CLUB NAVI●中学校ソフトテニス部……9
はぐくむ心●高等学校教諭清川一也……9
INFORMATION●参加イベントのお知らせ……14
we are Now●各校行事など……15
SHOIN点描●2007年 90周年事業田辺聖子文学館 完成……19

新年のごあいさつ

学校法人 樟蔭学園
理事長　**森　眞太郎**

新年あけましておめでとうございます。
皆様健やかに新しい年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

樟蔭学園が創立して94年目となる年を迎えました。大正の時代にいち早く女子教育の重要性に着目し、理想の女子教育への熱い志を持った創立者　森平蔵。思えば、彼がその第一歩を踏みだした時から、もう一世紀もの月日が経とうとしているのです。
そして今、創立100周年を前に、学園は新たな転換期を迎えようとしています。少子化や長期化する不景気、公立高校の無償化などの影響により、私立学校への進学希望者は今後も減ることが予想されています。樟蔭学園では、そのような状況を踏まえた上で、学園の魅力を一層高め、十分な学生数を確保することを通して、より強固な学園基盤を整えるための取り組みを始めています。
その一つは、一昨年に策定された中長期計画に基づく様々なワーキンググループでの検討と、それぞれの具体的な各施策の実行です。もう一つは、新しく創設された未来検討委員会での取り組みです。未来検討委員会では、教育に対する社会的ニーズの変化や、社会状況や教育行政の動向、学生・生徒のニーズ分析などを踏まえて、長期的な視点から見た学園の将来像について検討を始めています。これらの取り組みを通して、学園各校の教育の質を保証しつつ、経営の健全性を保ち、今後も進化し続ける知識基盤社会の中で活躍できる女性を育てる学園として、その地位を確かなものにしていきたいと考えております。
しかしながら、これらの様々な取り組みは、一部の人間だけで出来るものではありません。理事会を始めとした学園運営の中枢に関わる人間だけでなく、学園の全ての教員・職員が一丸となり、学生・生徒・園児、そして保護者の皆様、卒業生の皆様など、全ての学園関係者皆様からのご協力を得て初めて実現できるものです。
学園関係者の皆様には、引き続き様々な角度からご支援をいただき、学園で学ぶ子どもたちの明るい未来に向けて応援を続けてくださいますよう、お願い申し上げます。
最後に、本年も皆様にとりまして健康で幸多き一年となりますことを心からお祈り申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

大阪樟蔭女子大学
大阪樟蔭女子大学短期大学部
学長　**徳永　正直**

「樟蔭」ブランドの維持・向上のために

新年明けましておめでとうございます。
皆様におかれましては、穏やかで幸多き新春を迎えられたこととお慶び申し上げます。
年が改まるということで、心機一転、何か新しい始まりに期待する方が少なくないと思います。しかし、新たな始まりが幸福をもたらすためには、その前提として、長期にわたる継続的で地味な努力がなされているのでなければなりません。
近年、世の中の全体的な動きは、今年の干支「卯」のイメージに象徴されるように、「改革」の美名の下に、むやみにピョンピョン跳びはね走り回るということが続いてきたのではないでしょうか。このあたりで、じっくり腰を落ち着けて、将来展望を根本的に立て直すことが必要になっているように感じます。
大学のユニバーサル化が進む中にあって、多くの大学に対して「教育の質保証システム」の構築と「特色ある教育と研究の創造」が求められています。「樟蔭」においても、こうした社会的要請に応えるべく、建学の精神を踏まえた新しいミッションを策定し、教育内容をより一層充実させて、学生たちの就業力や社会人基礎力の養成に努力して参ります。そうすることで、大学に対する社会的評価を高めていきたいと考えています。
今後とも皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

樟蔭高等学校
樟蔭中学校
校長　**篠原　芳雄**

私たちは同じ船に乗っています

みなさま、新年明けましておめでとうございます。
今年の干支は「辛卯」（かのと・う）で、辛は鋭い刃物で旧弊を一掃し、卯は扉を押し開ける年だそうです。明治期を彷彿とさせる東アジアの動きを見ていますと、今や民意を結集し旧弊を改め、国の方向を決定すべき時にきていると思えます。
わが学園を取り巻く状況も、共学化・不況・学童期人口の減少等、逆風を受けています。追い風なのか悩ましいのは大阪府の私学授業料補助です。この政策の眼目は、これまでの学校への助成から家庭への助成に変化させたことです。生徒数を第一義に考えないと、私学は経営が成り立たなくなります。私学に保護者は、進学実績、施設設備、学科・コース等を求めています。この要求に答えながら、大正デモクラシー華やかな頃に設立された女子校の雰囲気を、現代に置き換えて醸し出す特色教育も必要です。
10年後の本学園像を捉える未来検討委員会で、その委員であります井上絢子樟友会会長が「先生方、どうか樟蔭を愛してください。」と心にしみ入る口調で発言されました。私たちは同じ船に乗っています。力を結集した1年になりますように心いたします。
みなさま、本年も引き続きよろしくお願い致します。

大阪樟蔭女子大学附属幼稚園
園長　**塩見　愼朗**

園児の成長を願って

新年あけましておめでとうございます。
ご家族で楽しいお正月をお迎えになられたことでしょう。
入園時には親にべったりと寄り添い、恥ずかしそうにしていた園児が、幼稚園の集団生活で友だちと遊び活動するうちに、体も大きくなり自然とルールを会得し、社会性が養われてしっかりします。朝も「園長先生おはようございます」と元気に挨拶するようになるのには驚かされます。
「文化の前に自然を、教える先に生きることを」と、叫んだのはルソーですが、幼稚園は豊かな自然環境に恵まれ、園児は暖かい日には裸足で芝生の園庭を走り回り、昨年できたハーブ園では、ミントやパセリの匂いを嗅いで愉しみます。学園の畑は自分たちで種を蒔き、作物の世話をし収穫します。附属幼稚園では草花でも小動物や昆虫でも、実物に直接触れ肌で感じる「原体験」（実体験）を通して「生きる力」をつける体験型の保育を行っています。また、丈夫な体作りの面からも食育に力を入れ、年長組は親子クッキングで、自分の名前入りのマイ庖丁を用いて、収穫したジャガイモや玉ねぎを料理しカレーなどを作ります。私は最初心配しておりましたが、料理の先生の指導を守り、それぞれの園児が大変慎重に、真剣に料理する姿に感心いたしました。子どもたちが作ってくれたカレーは格別美味しかったです。
現代は早期教育がはやりですが、遠くへ行こうとする者はゆっくりと着実に歩まなければなりません。幼児期はあせらず、伸び伸びと育て、若木が立派な大木に育つように、温かい心をもち、豊かな情操をもった品格のある人に成長して欲しいと願っています。

樟蔭同窓会
会長　**杉田　旬子**

新年のご挨拶

明けましておめでとうございます。
新しい年をご家族お揃いでお健やかにお迎えになられたこととお慶び申し上げます。
昨年の五月に伝統ある樟蔭同窓会の会長をおうけし、偉大なお二人の顧問と役員の皆様方のご協力で、順調に同窓会活動を進めさせて頂いております。これも学園はじめ会員の皆様方の温かいご理解とご支援のおかげと深く感謝いたしております。
くすのき祭の当日「ホームカミングデー」が開催され、季節はずれの台風も、卒業生の皆様の熱い思いで吹き飛ばしてしまいました。新しく変わっていく母校で、なつかしい先生方やお友達とお会いでき、まるで女学生にもどられた様に、とても楽しいひとときを過ごされました。皆様に代わりまして、樟蔭学園に御礼申し上げます。
このような絆を大切に同窓会といたしましても、卒業されました会員の皆様方と学園の相互の親睦を深め、歴史と伝統ある母校の発展の為に、役員一同力を尽くしてまいりますので、皆様方のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。
樟蔭学園の益々の発展とご繁栄を、又皆様にとって、ご健康で素晴らしい一年になりますようにお祈り申し上げます。

レポート

第16回樟蔭ファッションセミナー
「ファッションと私たちの生き方、働き方～ファストファッションの行き着く先は?～」
北山 晴一氏（本学 学芸学部 被服学科 教授／立教大学 名誉教授）
2010年10月23日（土）開催

グローバル化の進行とファストファッションの全盛は私たちに何をもたらし、何を失わせるのでしょうか?

北山晴一

【きたやませいいち】●●●●年、東京都生まれ。東京大学文学部フランス文学科を卒業。東京大学大学院人文科学研究科（仏語仏文学専攻）を修了後、同博士課程を満期退学。1976年から、パリ第3大学東洋言語文化研究所の専任講師を務める。その後、立教大学文学部教授、立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科長・教授などを経て、2010年に大阪樟蔭女子大学被服学科の教授として着任。立教大学名誉教授。著書に『おしゃれの社会史』『衣服は肉体になにを与えたか』（いずれも朝日新聞社）など多数。

衣服は私たちの生活に不可欠な存在です。しかし、私たちが普段何気なく服を選び、ファッションを楽しむ行動が、実は社会や経済の大きな流れに影響を及ぼしていることに気付いている人は少ないでしょう。今回のセミナーでは、昨年4月に本学被服学科へ着任された北山教授から、ファッションと私たちの生き方の関係についてお話しいただきました。

ファッションはどこへ向かっているのか?

人・物・サービス・お金などが世界中を行き交う世の中になり、グローバリゼーションやグローバル化の時代と言われています。
「食」の分野では、“人間が生きるために何かを食べている限り食文化が存在する”という「概念としての食文化」に対して、国や地域による食文化の違いなどの「個別の食文化」があります。グローバル化により外国の食品が大量に入ってくる現状は、「個別の食文化」である地域ごとの食文化を壊しつつあります。これをファッションに置き換えてみると、グローバル化の進行が、流行や国・地域による服装の違いなどの「個別のファッション」を失わせようとしています。
また、ファッション業界では年2回のコレクションの度に、流行のテーマが発表されます。今年（2011年）は「70年代」がテーマですが、一昨年は「80年代」、3年前は「60年代」でした。このような繰り返しをどう思いますか。この他にも、素材や色彩、形などの衣服の要素や各種のテーマが毎年出されますが、どれも既に聞いたことのあるものばかりです。果たして、ファッションの新しい出口はどこにあるのでしょうか。

ファストファッションとスローファッション

今はデフレの時代で、より安いものを求める考え方が浸透しています。その結果として、流行の服を低価格で販売するファストファッションが全盛の時代を迎えています。
代表的なのは『ユニクロ』です。品数が豊富で、そこそこお洒落な服が安い値段で大量販売されています。また、海外からも『H&M』や『GAP』、『FOREVER21』などが日本に出店しています。一般的に「ファストファッション」と呼んでいますが、厳密には「SPA」※と「ファストファッション」の2種類に分けられます。
「SPA」とは商品の企画・製造・販売までを1社で行い、大量生産・大量販売を通してコストダウンを図る業態で、ユニクロやGAPなどがこれに該当します。それに対して「ファストファッション」は、アパレル卸メーカーと密接に協力し、多品種少量の商品を短期間で入れ替えながら低価格で販売する業態で、H&MやFOREVER21がこちらに該当します。そして、多くの場合はこれらの両方を含めて「ファストファッション」と呼んでいるのです。
このようなお店では、安くてそれなりに良い服を買うことができます。しかし、本当に安いだけで良いのでしょうか。安いものを求めるあまり、賃金の安い海外生産ばかりになり、雇用が失われている現実、地域性などの「個別のファッション」が失われている現実もあるのです。食の分野では、既にスローフードという考え方が定着しつつあります。地元で作ったものはできるだけ地元で消費し、物を作っている人と消費する人の両方がそれなりに幸せになろうという考え方です。同じように、ファッションにもスローファッションという考え方が必要であり、ファストファッションがもたらす諸問題に対する一つの解決策になるのではないでしょうか。

ファッションにおけるソーシャル・ビジネスの芽生え

最近ではファッションの分野でソーシャル・ビジネスを始める人が増えてきています。ソーシャル・ビジネスとは、社会的な問題を解決することを目的として収益活動を行うことです。『ピープル・ツリー』という団体では、ミッションとして、途上国を中心とした生産者を支援すること、環境を守ること、フェアトレードの実践などを掲げています。フェアトレードとは、「生産者に公正な対価を支払う」「環境に配慮する」「安全で健康的な労働条件を守る」など、幾つかの基準を守った上での取引を意味しています。たとえば、コーヒーを例に挙げると、現地でコーヒーを作っている人たちが十分に暮らせる対価を維持して取引を行います。不当に安い値段で買い取って、企業だけが大きな利益を上げたりするようなことはしません。一般の商品よりも若干高くなりますが、途上国の生産者の自立につながると共に、消費者は無農薬などの安心を得ることができるようになっています。
日本でのソーシャル・ビジネスの先駆者の一人として、バングラディッシュで活躍している山口絵理子さんがいらっしゃいます。彼女は、バングラディッシュの伝統的な素材ジュート（麻のような素材）を使ったおしゃれな商品を企画・製造・販売することによって、適正な賃金を支払って現地での雇用を作り出しています。このような活動を行っている人が日本からも出てきていることを皆さんには知っていただきたいと思います。

バングラディッシュの女性の衣装。
ファッションのグローバル化は、彼女たちの衣服にどのような影響を与えるのか。

ファッションのグローバル化がもたらすもの

先ほど「個別の食文化」について話をしましたが、日本料理やフランス料理といった個別の食文化は、失われた部分もありますが、まだまだ残っています。では衣服についてはどうでしょうか。日本の伝統である着物は、ほとんどがセレモニー用あるいは民族衣装としてしか残っていません。
今、ユニクロはバングラディッシュに工場を作り、大きな生産拠点を作ろうとしています。一方、現地の女性の多くは、今でも伝統的な美しい民族衣装を身につけて生活しています。近い将来、ユニクロの商品がバングラディッシュ国内でも販売されるようになり、多くの人が購入するようになるかもしれません。現地の女性は、世界的なブランドの服を着られるようになって喜ぶかもしれません。しかし、消費社会やグローバリズムのメカニズムがそのまま働けば、個別の文化はどうなるでしょうか。非常に考えさせられる問題です。
ファストファッションやグローバル化がもたらす恩恵があることも事実です。でも、本当にこのままでよいのでしょうか。このような問題を踏まえて、あなたにとってのモード・ファッションとは何かをもう一度考えてみてください。

（この文章は、セミナーの一部分を企画広報室がまとめたものです）
※**S**peciality store retailer of **P**rivate label **A**pparelの略

これからの予定

KOSAKA

国際英語学科・樟蔭英語学会　公開シンポジウム
「多言語文化社会と日本語」
日　時：1月29日（土）13:00～15:00
講　師：小林 明美氏（本学 国際英語学科客員教授）
　　有田 節子氏（本学 国際英語学科教授）
　　樋口 尊子氏（本学卒業生 日本語教師）
受講料：無料／お申し込み：必要〔締切：1月24日（月）〕

第17回樟蔭ファッションセミナー
「デザイナーの役割とブランドビジネス」
日　時：2月5日（土）14:00～16:00
講　師：近藤 英子氏（株式会社エターナリー・ブレイズ 代表取締役社長兼デザイナー）
受講料：無料／お申し込み：必要〔締切：2月3日（木）〕

大学院人間科学研究科人間栄養学専攻　第5回公開講演会
「病気と遺伝子 ―オーダーメイド医療への変革―」
日　時：2月26日（土）14:30～16:30
講　師：堀 正二氏（大阪府立成人病センター総長）
受講料：1,000円（当日支払※生徒・学生は学生証提示で無料）
お申し込み：必要〔締切：2月23日（水）〕

国文学科　公開講座
「文楽・浄瑠璃の会（解説と鑑賞）」
日　時：3月16日（水）13:00～14:30
出演者：豊竹 呂勢大夫師・鶴澤 清二郎師
解　説：森西 真弓氏（本学 国文学科教授）
受講料：1,000円（当日支払※生徒・学生は学生証提示で無料）
お申し込み：必要〔締切：3月10日（木）〕

上記各講座は小阪キャンパス内にて開催いたします。
各講座に参加を希望される方は、大学ホームページまたはハガキ・FAX・メールにて、
①住所②氏名（ふりがな）③電話番号④参加希望講座名を明記の上、お申し込みください。
〒577-8550 東大阪市菱屋西4-2-26 大阪樟蔭女子大学 学術振興課（小阪キャンパス）
TEL：06-6723-8237　FAX：06-6723-8348　E-Mail：hp-gakujyutsu@osaka-shoin.ac.jp

SEKIYA

第10回心の相談コロキアム
「人間の基本に立ち返る ―ただ坐り、立ち、歩き、呼吸して、心も体も自由に生きる―」
日　時：1月22日（土）13:30～16:00
講　師：佐々木 奘堂氏（天正寺住職）
受講料：無料／お申し込み：必要〔締切：1月21日（金）〕
キッズルーム：要申込・無料〔締切：1月18日（火）〕

心理学部開設記念授業
「心理学の現場 ～心理学と社会のつながり～ 」
テーマ：「映像技術と心理学」
日　時：1月29日（土）14:00～15:30
講　師：山口 麻衣氏（オリンパス株式会社 未来創造研究所研究員・博士）
受講料：無料／お申し込み：必要〔締切：1月28日（金）〕

上記各講座は関屋キャンパス内にて開催いたします。
各講座に参加を希望される方は、大学ホームページまたはハガキ・FAX・メールにて、
①住所②氏名（ふりがな）③電話番号④FAX番号⑤参加希望講座名を明記の上、お申し込みください。※「心理学部開設記念授業」はハガキでのお申し込みを受け付けておりません。
〒639-0298 奈良県香芝市関屋958 大阪樟蔭女子大学 学術振興課（関屋キャンパス）
TEL：0745-71-3168　FAX：0745-71-3141　E-Mail：s-gakujyutsu@osaka-shoin.ac.jp

上記の講座はHPからもお申し込みいただけます。http://www.osaka-shoin.ac.jp

藤澤良行

【ふじさわよしゆき】
大阪樟蔭女子大学 学芸学部 国際英語学科 教授
1988年大阪市立大学文学部大学院文学研究科英文学専攻後期博士課程 単位取得満期修了。文学修士。
大阪医科大学専任講師を経て、1994年4月に専任講師として本学に赴任。2008年より教授。
2002年～2003年米国インディアナ大学客員研究員。2010年～国際英語学科学科長。
2007年度から3年間教育開発機構長として、本学の授業改善に取り組んだ。

「英語が好き」な1回生を、「英語がよくできる」卒業生に育てる国際　英語学科

国際英語学科のELPプログラム（English Language Passport Program）は、1回生から英語の授業が週8コマ、しかもその多くはネイティブ教員の授業という、英語実践力を確実に身につけられるプログラムです。基礎段階から一歩一歩ステップアップしていく学生の目標を明確にするために、習熟レベルを認定する「ランゲージ・パスポート」を発行するなど、英語実践力を高めるためのさまざまな工夫をしています。今回はこのプログラムの作成に中心的な役割を果たした藤澤良行教授にお話を聞きました。

イギリス、アメリカの言語を超えて国際語として発展する英語

英語は国際語として広く世界中で使われています。この時代にふさわしい英語力を身につけてもらうことを目的に、学芸学部英米文学科は、2010年度から国際英語学科に新しく生まれ変わっています。今回のリニューアルにより仕事や生活に具体的に役立つ英語運用能力を強化する教育体制がさらに充実しました。

英語を学ぶ意欲がさらにかき立てられ、確実にステップアップできるように工夫されたELPプログラム（English Language Passport Program）を新しく編成し、1回生から4回生まで、TESOL（英語教授法）専門のネイティブ教員による授業を増やしました。1回生から英語の授業が週8コマあります。これは外国へ留学して学ぶのに近い環境で、英語をシャワーのように浴びて英語に慣れることを出発点にしています。とはいえ、難しすぎる内容ではなく、まず基礎力を固めることから始めます。

目的意識を高めるために、自分が現在どの程度、英語を習得できているのかを知る目安となる評価を行うために、「ランゲージ・パスポート」を発行します。自己紹介のような簡単な会話ができるレベルから、TOEIC740点以上の実力を身につけるレベルまでの評価を、読む・聞く・話す・書くの4技能それぞれで行います。

また、授業外で学習をサポートするために「セルフアクセスセンター」を設置しています。ここでは英語の本やDVDを豊富にそろえているだけでなく、ネイティブの教員や留学経験のあるOGが、学習の手助けや留学・TOEIC受験などの相談に気軽に応じています。

さらに、新しくニュージーランドのオークランド大学への4カ月の留学プログラムも設置します。ホームステイをしながら、世界各国からの留学生とともに英語を学ぶ内容の濃い充実した語学研修です。なおこの研修には、大学からの費用補助もあります。

リニューアルの背景には「文学離れ」だけでなく「英語離れ」も

卒業生はもちろんでしょうが、16年にわたり本学で英語を教えてきた私自身にとっても、愛着のある英米文学科の名前が消えることには、寂しさを感じます。そこで、英米文学科が国際英語学科に生まれ変わった背景について、少し話してみます。

ひとつは、若い人たちの「文学離れ」「活字離れ」です。海外文学全般が読まれなくなり、英語を志しながらも、日本語訳でもシェイクスピアを読んだことがないという人が増えています。教員としては残念なことですが、厳しい社会状況にあって、優雅に文学の勉強なんかしていられないという時代の流れは止めようがありません。ただ問題なのは、それに加えて、「英語離れ」という状況も起こっていることです。国際マーケットを相手にしている日本の企業が「社内言語を英語にする」というニュースが聞かれるなかで、若い人たちの英語離れは不思議な感じもしますが、これも事実です。

この原因には、いろいろな要素があると思います。私が気になるのは、企業をはじめ社会全体があまりに高度な英語能力を求めすぎるため、英語が好きなのに、英語を学ぶことをあきらめてしまう人たちのことです。たとえば就職活動のシーンでは「英語はTOEICで650点以上が必要。600点以下なら履歴書に書かないほうがいい」などという情報がまことしやかに流されています。こんな話ばかり聞かされていると、中学校・高校で英語に接し、「英語って楽しい」と思った人たちも、「英語は好きだけれど、自信がない」と、英語を学ぶことを敬遠してしまうのは残念なことです。

でも、そんなことはありません。英語を学ぶということは、そんな薄っぺらなことではないのです。世界でもっとも話されている国際語である英語を身につけることは、単に仕事に役に立つだけでなく、英米に限らず世界中の人々と交流でき、たくさんの国の文化を深く知ることで、自らの見聞と可能性を大きく開くことになるのです。国際英語学科のカリキュラムには、英語に強くなるだけでなく、他国の文化を知る基礎となる日本文化を学ぶ授業や、外国人に日本語を教えるための授業もあり、英語を切り口にして人生を豊かにする学びに満ちています。そして英語が好きでさえあれば、大学4年間でその実力を着実に積み上げていきながら、十分に高いレベルに達することができるのです。

学期中は「研究」だけでなく「教える」ことに夢中になる

私自身、高校時代は理系選択で、英語も元々好きでしたが、語彙力をつけることに苦労した

いつまでも樟蔭で学んだ"こころ"を忘れないでほしいという思いから、毎年発行されている「藤澤ゼミ通信」。この通信には、藤澤先生や卒業生の近況が報告されています。ゼミOGの皆さん、ぜひ藤澤先生に近況報告を!

ため、特別に得意な教科ではありませんでした。ただ、サリンジャーの『ライ麦畑でつかまえて』の翻訳を読み、またジャクソン・ブラウンやイーグルスの『ホテル・カリフォルニア』を聞き、当時アメリカンニューシネマと呼ばれた『イージー・ライダー』などの映画を見て、アメリカそのものに強い興味を抱いて、京都府立大学文学部に進みました。大学・大学院では、英詩からヘミングウェイやフィッツジェラルドなどのアメリカ文学にいたるまで原書テクストを丁寧に読むことを鍛えられました。中でもフォークナーの『響きと怒り』に出会い、「語り」の面白さと奥深さを感じ、アメリカ文学の研究者になろうと決心しました。だから英語を本格的に学んだのは、大学・大学院時代です。

また、大学生の時から、友人と「学習塾」を運営していたせいか、自分の研究だけでなく、それ以上に英語を「教える」ことの面白さを感じるようになりました。

私の英語の授業は、1回生からかなりスパルタ式で、英語を身体で覚えられるように音読での反復練習を行い、厳しく指導します。これをやっておくことが、専門課程に進んで自分が選んだ分野での英語実践力を高めるのに役に立つのです。

私が高校時代に落語研究会に所属していたこともあり、落語好きが高じて落語家の桂かい枝さんと桂あさ吉さんを非常勤講師に迎えた「英語落語」の授業を学科カリキュラムに取り入れ、授業を通じて学生が英語落語を披露できるように組み立てました。毎年2月には、「発表会」を開催し、本学に特設された「寄席」で学生が英語落語を披露します。

授業の成果を披露する「英語落語発表会」の様子。回を重ねるごとに学生のレベルは高くなり、先生方もビックリ!
今年の発表会も楽しみです!（詳細はP.14参照）

英語落語で外国の方の笑いをとれるという経験は、学生にとって想像以上に気持ちのよいことです。また、一席の英語落語を身につけ、完全に演じられるようになることで、普段の英会話にも余裕ができ、大きな自信につながります。最近私は、「英語落語」を英語教育の一つの手法として、中学校・高校の教員に紹介する活動も行っています。

また、アメリカ文学の研究だけでなく、英語の教員養成にも取り組んでいますし、2007年度から3年間、教育開発機構（本学独自）の機構長として、本学の授業改善に取り組んだことから、余計に「教える」ということに喜びを感じています。

樟蔭には、素直で大きな伸びしろを持った学生がたくさん入学してきます。そんな1回生が卒業するまでに、それぞれの個性に合わせて大きく成長していくのを見るのが大好きです。彼女らが、4年間で培った個性や知識を活かして世界に飛び出す日が来ることを楽しみにしています。

こもれびの窓 23

独りきりでタコス料理ケータリングを起業
後押ししたのは、樟蔭時代に得たいくつかの小さな自信

お祭りやイベント会場に行くと、いろいろな食べ物を販売しているケータリングカーが並んでいます。山口智子さんの「タコス屋サリー」もそんな1台。美しいブルーに花の模様のボディが、ひときわ目を引きます。他ではちょっと食べることのできない、独特の沖縄風タコスが人気を呼び、出店会場にわざわざ足を運ぶファンもいる注目のケータリング店。20代で独力起業した山口さんを支えているのは、樟蔭の学生時代に経験したことから得た「いくつかの小さな自信」です。

山口智子

やまぐち・さとこ
ケータリングサービス「タコス屋 サリー」

奈良県生駒市出身
2000年3月樟蔭女子短期大学 人間関係科卒業

生駒の中学校を卒業後、樟蔭高校に進学。
1年生の時の担任は、お母さんのように
優しくてみんなに慕われていた玉木俊子先生。
3年生では「体育祭」のダンスコンテストに
真剣に取り組む。
休み時間も放課後も、教室、体育館、運動場、さらには
近所の公園で猛練習したことは懐かしい思い出。
短大人間関係科卒業後はレストランの店長を経て、
28歳で、移動販売車によるタコスのケータリングを
独力で開業。
沖縄風タコスを開発するため、現地で食べ歩きをし、
おいしい店につくり方を聞くがさすがに教えてくれない。
それでも食いさがり、なんとかヒントを得て
試行錯誤しながら、オリジナル「サリーのタコス」を
完成させる。
とにかく独りきりの開業のため、
最初はどこに行って店を出していいのかわからず、
イベントを取り仕切る広告代理店に
片端から電話をかけた。
「とてもおいしいタコスです。出店させてください」と。
そんな努力の結果、いまではいろいろな場所で
「タコス屋サリー」の青い車は人気のケータリングカーに。
サリーの店名は、樟蔭高校時代に、ある留学生が
「さとこ」と発音できず、サリーと呼んだことに由来する。

レストランの店長を経て 28歳でタコスの移動販売を起業

ブルーの可愛いワゴンの中から、おいしそうな匂いが漂ってきます。車内には、調理用具が整然と並び、狭い空間でハンチングをかぶった小柄な女性が忙しく動き回っています。
「お待せいたしました。ビーフタコスです!」
とびっきりの笑顔とともに、元気よく車の窓から顔をのぞかせたのは「タコス屋サリー」の山口智子さん。
「サリーのタコスは、沖縄スタイル。よくある堅いお煎餅のようなものではなく、その場で揚げた香ばしいモチっとした食感のトルティーヤに、タコスミートと野菜がのっています。ゆるくふたつ折りにしてパクッと食べていただくと、トマトの甘さとチリソースの辛み、そして肉汁たっぷりで絶妙なおいしさがお口に広がります…」
沖縄旅行で初めて食べた柔らかいタコスの味に惚れこんで、さらにコスタリカ人の友達からヒントを得て、試行錯誤しながら作り上げたというサリーのタコス。自慢するだけあって、確かにちょっと他にはない味です。取材した日は英国風フリーマーケットで出店し、お客様の列がなかなか途切れませんでした。関西を中心に時には遠く岡山あたりまで、自分で車を運転して行き、いろいろなイベント会場で出店しています。
山口さんが、調理の出来るケータリングカーでの移動販売を始めたのは3年前。それ以前は地元の生駒にあるイタリアンレストランの店長でした。
「短大への進学が決まるのと同時に始めたレストランでのアルバイトが、今のケータリングの仕事をするきっかけになっています」
そのレストランは、今はもう閉店してしまいましたが、古くから生駒で愛されてきた老舗でした。フロアーのウェイトレスからスタートし、厨房での調理、仕入れと仕込み、そして経理的なことまで、レストランの仕事はすべてそのお店で学んだといいます。
「お店を取り仕切っていたのは経営者の奥さんで、私たち従業員はママさんと呼んでいました。仕事には厳しいけれど、心のあたたかい人で、いろいろなことを教えていただきました。最初の頃は接客がうまくできなくて、注意されることばかり。なんとかしなくてはと、ナイフやフォークを学校に持って行き、友達をお客様に見立てて、あいさつやテーブルセッティングの練習をしたものです。うまくできないと自分に腹が立ちますから、やっぱり負けず嫌いなのでしょうね(笑)」

おいしくても食べる人がいない ならば人の集まる場所に乗り込もう

短大卒業時には一般企業への就職も考えていくつか会社訪問もしましたが、「OLは似合わないなあ」と、正社員になってレストランでの仕事を続けることにしました。「おいしいね」と言ってくれるお客様の笑顔が見えるレストランの仕事に、やりがいを感じていたのです。
一方で、オフタイムには樟蔭時代の友人と二人でストリートダンスのユニットを組んで、ダンスに熱中していました。
「ダンスにのめり込むあまり、休日に休めないレストランの仕事を辞めて、一般事務の仕事に転職したこともあるのです。ただ暇があると前のレストランに顔を出して、つい手伝ったりしているうちに、結局元のレストランに戻りました。その頃はダンス熱も治まっていましたし(笑)。そして新店の店長を任されたのです」
バイトを含めて従業員は約10名。ママさんの信頼も厚く、女性店長として活躍していました。店長として任される仕事が多くなるほど、やりがいとともに辛さも増します。
「今の仕事もそうですが、いちばん大変なのは仕込み作業です。あの頃辛かったのはホワイトソース作り。大きな寸胴鍋のソースをこれまた巨大なしゃもじのようなヘラで、焦がさないように長時間ゆっくりかき混ぜ続けます。全身を使っての作業なので、身長148センチの私には、一苦労でした。今もソース作りには、心をこめて時間をかけて取り組んでいます。じっくり手をかけることがおいしさの素というホワイトソース作りの経験が生きています」
しかし、新しい道路や電車の開通などで生駒の人の流れの変化によって、経営が圧迫される状態になってしまい、様々なことが重荷になって仕事に希望を見い出せなくなってしまいました。
「料理はおいしいし、いい店なのに、人がいないと商売は成り立ちません。この辛い悔しい経験が、お客様のいる場所にこっちから車で乗り込んで商売をするケータリングカー開業のきっかけとなりました。前日の仕込み、長距離を運転しての移動、車内で立ちっぱなしの調理と販売、そんな大変さはありますが、その場所に行けば人がいる、食べていただければその場の口コミでお客様の列ができる、というケータリングの魅力はなんとも言えません」

メキシカン風の車内は、スムーズに料理ができるよう工夫されています。

「休み時間の予習復習」と 「青春の躍動」が教えてくれたこと

「まったく独力での開業に不安はなかったのでしょうか」と尋ねたとき、山口さんはこんな話をしてくれました。
「高校2年のクラス替えで、親友たちと離れ離れになって、落ち込んでいた時、成績も下がる一方で本当に最悪な状況になってしまいました。しかも、仲良くなれそうだった友達も海外留学してしまいました。休み時間も孤独で間が持たないし、ひとりで過ごすことが多くなり、仕方がないので勉強でもするかと教科書を広げて予習復習を始めました。するとなんと成績は急上昇。とはいってもクラスで10番ぐらいになったぐらいでしたが、我ながら驚いちゃいました。ただこのとき『やろうと思えばできるんだ』と実感しました」
もうひとつ手応えを得たのは、高校3年時の「青春の躍動」(体育祭に行われるダンスコンテスト)でのこと。
「私のクラスには、ダンス部の子がいなくて、クラスのまとまりは今一つ。そこで、何とかしようと友人二人と、ダンス教室に通い頑張りました。私たちのやる気に引きずられるように、クラスがだんだんと一体になっていきました。残念ながら結果は8位でしたが、このすごく楽しくて充実した時間をつくりだせたことは、『集中すればなんでもできる』という自信になりました。このような高校時代のこんな小さないくつかの自信が、起業を決心した時に後押しをしてくれたことは間違いありません。体育祭や文化祭、それに校外学習や高原学舎、どれをとっても懐かしい思い出でいっぱいです」
短大の人間関係科で学んだことも、起業する時には役立ちました。
「私は自由に生きたいし、独立心が強いのだと思います。でも、そのこととわがままは違います。自信を持てるおいしい料理を提供する努力はもちろんのこと、個性の強い同業のケータリング仲間との関係も重要ですし、なんといってもお客様への感謝の気持ちを忘れないことが大切です。このような心構えがあってこそ、ほんとうに自由に生きていくことができるのだと感じています」
タコス屋サリーの青い車は、きっと今日も人の集まる場所で、元気に営業しています。どこかで見かけたら自慢のタコスをぜひ召しあがってみてください。

サリーのタコスは、肉汁たっぷりのタコスミートと
エスニカンな味がやみつきに。

卒業生の方々のご活躍の様子をお知らせください。
さまざまな分野でご活躍されている卒業生の情報をお寄せいただき、みなさまのお力をお借りして、この「こもれびの窓」で幅広い卒業生の姿をお伝えしていきたいと思います。
身近でご活躍の卒業生の様子をぜひとも樟蔭学園企画広報室までお知らせくださいますよう、お願いいたします。●TEL 06-6723-8152●FAX 06-6723-8263